

連載

株式評論家 山本伸一の

# 兜町スタンダード



今年も「掉尾の二振」に備えておこう！

今年の相場も残すところあと僅か。当欄も年末最終版となったが、すでに多くの方が「節税対策の売り」を終え、休場期間中の「不測の事態」を警戒すべくポジションを軽くしながら最終営業日までの取引機会を窺う状況だろうか。

そろそろ季節柄の売り圧力も消える頃、需給改善による年末恒例の株式キーワード「掉尾の二振(とうびのいっしん)」の発生期待も高まるタイミングとなっている。昨年末も12月21日の日経平均株価終値は10183.47円。大納会高値10707.51円と6営業日で520円超の上昇を記録するなど、12月相場終盤は「絶好の仕掛け場」になりやすい。

さらに、今年の休場期間は通常通りの4営業日となるが、1月2日が日曜日となるため、米国市場との休場期間の差は「2営業日」に。外部要因の懸念も少なく、例年に比べ積極的に狙えるのではないだろうか。

気になる物色対象だが、指数浮上に付くべく中核銘柄がメインとなるが、参加者限定相場となりやすいため、ボラティリティに優れたタイプに分がありそうだ。具体的には、IPOなど需給妙味の強いタイプや軽量株、低位材料株などが候補となるだろう。弊社では「年末年始で狙える上昇期待株レポート」を販売。興味のある方は弊社に直接問い合わせしてほしい。